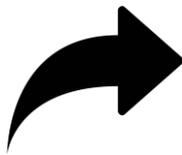




平成



令和



No.27

## 留学生ホットライン ニュースレター2019

### 目次

代表挨拶	P1
領事館からのメッセージ	P1
留学生ホットラインについて	P2
ボランティア募集	P2
2018 活動報告	P2
新人から一言	P2
2018 相談統計	P3
2018 収支報告	P3
ドナーリスト	P4
サポートのお願い	P4
インタビューコーナー	P5
アツシの世界の果てまで 不思議発見!	P6
団体紹介	P7
編集後記	P7

### 留学生ホットライン

Ryugakusei Hotline  
(213) 473 - 1630  
231 E. 3rd Street Suite G-106  
Los Angeles, CA 90013  
<http://ryugakusei.ltsc.org/>



### 代表挨拶

新天皇が誕生されて年号も平成より“令和”と改められました。令和という言葉は日本最古の歌集“万葉集”梅花の歌から採用され、その意味は春の訪れを告げ見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望と共にそれぞれの花を大きく咲かせることが出来る。そうした日本でありたいとの願いを込め決定されということです。

留学生ホットラインもリトル東京サービスセンターを始め日本国総領事館や日系社会のサポートとご支援に支えられ、平成も無事乗り越える事が出来ました。現在、約10名のボランティアと今年から新ボランティアも加わり、一人ひとりが役割と責任を持って活動しています。

留学生の皆さん一人ひとりが充実した学生生活を送れるよう、そして新元号“令和”に込められた願いどおり、明日への希望と共にそれぞれの花を大きく咲かせることが出来るように私たちボランティアも問題解決のお手伝いをさせていただけたらと思います。

代表 和田 容生子

### 領事館からのメッセージ

在ロサンゼルス日本国総領事館が管轄している南カリフォルニア及びアリゾナ州には、留学のために滞在されている日本人の方も多くおられます。慣れない土地での生活では、緊張や不安から体調を崩したり、思いがけず事件や事故に巻き込まれてしまう可能性もあります。いつ起こるか分からない事故や災害、緊急事態に備え、緊急時の連絡先として、海外に3か月以上滞在される方は「在留届」に、滞在期間が3か月未満の方は「たびレジ」への登録をお願いいたします（詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。）。

当館には、留学生の方々からも様々な相談が寄せられますが、そのような時、留学生ホットラインは大変心強い存在です。慣れない海外生活で不安やストレスを感じることもあるかもしれませんが、在ロサンゼルス日本国総領事館は、これからの留学生ホットラインと協力しながら、留学生の皆様が充実した留学生活を送れるよう、応援していきます。

在ロサンゼルス日本国総領事館 副領事 古橋 拓也

**留** 学生ホットラインは1991年の発足以来、言葉や文化の壁、治安やビザの問題などで悩む留学生が充実した留学生活を送れるよう、電話による日本語での情報照会を通してサポートしています。

**ビ**ザの問題をはじめ精神衛生、学校やハウジングのトラブル、健康問題や事故、犯罪関係の問題などについて1万5千件以上の電話を受付け、対応して来ました。また、2008年に日本政府より外務大臣表彰を授与されたことは望外の喜びでした。

**ホ**ットラインのスタッフは全員がボランティアで団体の主な財源はコミュニティーの個人及び諸団体からの寄付によります。



留学生ホットラインでは常時ボランティアを募集しています。

①リスナー(電話相談員)

- ・日本語で電話対応のできる方。
- ・毎週4時間以上、LA、リトル東京のオフィスで電話を取れる方。
- ・一定期間(6ヶ月以上)続けられる方。
- ・責任を持ってボランティアができる方。
- ・所定のトレーニングを受けられる方。

②その他:

- ・イベントなどを手伝ってくれる方。
- ・専門や特技を活かし様々な仕事をしてくれる方。
- ・他にも何かの形で協力してくれる方。

◇年齢、職業等の条件はありません。◇

お問合せ: Tel (213) 473-1630  
月～金 午前10時～午後5時

2018年 活動報告

1月 ファンドレイジング : お正月 in リトル東京

6月 ニュースレター発行

7月～継続中 ボランティアトレーニング

7月 オリエンテーション

8月 ボランティアの基本姿勢

異文化理解

11月 領事館からの注意

治安、犯罪等



新人からのメッセージ

こんにちは。ずっとボランティアには興味があり、いつか誰かのためにお役に立てることが出来る様になれば良いなと思っておりました。

留学生ホットラインに参加させて頂き早1年が過ぎて、とても充実した日々を過ごさせて頂いております。

未だ未だお電話を取る時不安で一杯ですが、お電話頂いた方が少しでも心温かく又楽になって頂ける様なリスナーになりたいと思います。

けいこ



## 2018年相談統計

女性	男性
18	22

ビザ関係	学校	交通	ハウジング	健康	犯罪	生活	その他
23	5	2	7	2	1	2	8

## 2018年収支報告

支出			収入	
オフィスレント		1,900.00	ドネーション	2,662.20
会計手数料		456.00	ファンレイジング お正月 in リトル東京	1,491.58
備品	プリンター	109.49	コピー機個人使用料	2.10
サプライ	カード、バインダー	29.56		
	切手、郵便	148.00		
	インク	353.64		
	サプライ計	531.20		
ファンレイジング	お正月 in リトル東京	703.26		
ボランティアアプリケーション		57.90		
広報		62.35		
合計		3,820.20	合計	4,155.88
			収支	335.68

## 2018年ドナーリス

### DONOR THANKS

Cude, Mitsuko  
 Hallenberg, G Kiyoko  
 Hasegawa, Ron Ryuichi  
 Hongo, Yoko  
 Irie, Kenji  
 Isono, Aka Masayo  
 Kinoshita, Terumi  
 Kuromizu, Nobuko  
 Narumi, Margaret T  
 Mosher, Toshie M  
 Okawa, Chizu

Robertson, Hiromi  
 Sanghavee, Mitsuyo Y  
 Sone, Hiromi  
 Taki, Yoshiyuki  
 Tanaka, Shinichi  
 Tanigami, Tomomi  
 The Kass Foundation  
 Consulate General of  
 Japan in Los Angeles

Hirata, Tsumadori Yuki  
 Kanuma, Midori  
 Allen, Machiko  
 Mogan, Shigeko, Arai  
 Robertson, Russell  
 Sakamoto, Yasuko  
 Grobal J Network  
 Lighthouse  
 L'ovest  
 Taki Law Office  
 Vivid Navigation.



## ご寄付のお願い

留学生ホットラインはコミュニティの皆様からのご寄付で成り立っており、昨年も多くの個人、団体からご支援を賜りました。ボランティア一同、感謝に絶えません。皆様からの貴重な御寄付は、留学生達のために大切に使用性を感じている方々がいて下さるとも勇気付けてくれます。



わせて頂きます。留学生ホットラインの必  
いう事は、私たちボランティアを何より

近年、留学生の数は減少し、インタ  
きた為、電話の件数は減っています。  
悩みなど、電話で直接話を聞いて欲しいというニーズがある限り、留学生ホットラインの活動を続けて行きたいと思っております。

ーネット等を利用した相談方法も増えて  
しかし簡単には解決できない問題や心の

私共のその様な思いにご賛同いただけたら是非、当団体を通して留学生達を御支援下さい

ご寄付につきましては：

- 1、チェックを郵送の場合、宛先は” Little Tokyo Service Center” として、左下に” RHL” と明記して下さい。（同封のドネーションスリップと返信用封筒をご利用下さい）
- 2、銀行振り込みの場合、下記の口座にお願い申し上げます。

Bank of the West Business Interest Checking Account  
Little Tokyo Service Center (Ryugakusei Hotline)  
Routing No. 122242843 Account No. 770014884



- 3、 PayPal でのお支払いはご自分の Paypal のアカウントにログイン後、マイアカウントのページに行き、” Send & Request “ から” Pay for Goods or Services” を選択して” ryugakusei@ltsc.org” と入力して下さい



## ボランティアインタビュー

◇ 7回目となるこのコーナーですが今回はボランティア相談員7年目のMさんにお話しをお聞きます。

▼ まずボランティアを始めたきっかけからお願いします。

▲ 2011年の東日本大震災、加えて主人の家族と私の家族に続けて不幸があり、気を落としがちな日々でした。私が渡米してから日本では雲仙普賢岳の噴火による火砕流、阪神淡路の震災など様々な自然災害が繰り返され、遠いアメリカで義援金の他に何もできないことに何かしら落ち着かない思いがあったのですが、そ

んな折日系雑誌にボランティア募集の広告を見つけ、自信はないけれど誰かのために何かできるかもしれない！と思いました。

▼ ボランティアを始めて何か変化した事がありますか。

▲ 向上心を持ち続けるのは努力も必要だしいろんな意味で難しいことです。しかし意思を持って学んでやったり楽しい。その楽しさはボランティアの仲間から、私たちボランティアをトレーニングして下さる講師の先生方から、そして電話をして下さる相談者の皆さんから教えて頂き学んでいく中で感じる事ができます。そういう意味では日本の外に飛び出してがんばっている多くの人々が得難い先生でありたいへん頼もしく愛おしく思います。そんな人々を知り、心を動かしている「自分を知る」ことも楽しみの一つとなりました。

▼ ボランティアで大変な事、逆に嬉しい事はありますか。

▲ 落ち込んでいる人をうまく励ましてあげられなかったり一本の電話にうまく対応できなかった時の喪失感が辛くそれに耐えうる自分の気持ちが欲しいと思います。一方で電話をかけて来てくれた人からの「ありがとう」「また電話します」という言葉は本当に嬉しくてやっけていて良かったという気持ちにさせてくれます。

▼ 留学生ホットラインでは電話相談以外の仕事もしていますか。

▲ 会計係をしています。留学生ホットラインの活動は皆様からのご寄付によって成り立っていますが、寄付という困っている人のために直接使われるお金は寄付額の一部だけじゃないかというような声をよく聞きます。特に私たちホットラインは留学生に直接お金を渡したりすることはありません。しかし会計の仕事を通して留学生の相談を聞く活動のために様々な費用がかかることを実感することができました。これも社会勉強ですね。寄付をしていただく個人、企業、団体の方々にはいつもたいへん感謝しております。また私たちの気持ちの水源、知識の根源に補給して下さる講師の先生方、私たちの活動を無償であと押しして下さる方々あってのこのボランティア活動です。ありがとうございます。

▼ ボランティアは7年目ということですが長く続ける秘訣はなんですか。

▲ 自分の専門はずっと理系だったので、社会や法律など文系のことを学ぶのはとても新鮮です。



ベトリファイドフォレストの倒木



自宅にて、ご主人と愛猫のトリと

それからボランティアの仲間がみんな楽しくていい人なので自分も楽しく活動できます。これからもずっと続けていきたいけれど日本に残した母のことが心配です。しかしもし

も留学生ホットラインを辞めて帰国することになってもボ

ランティアの仲間とはずっと繋がっていたいと思っています。

▼ 近年の日本人の留学離れについてどう思いますか。

▲ これからは国と国とのコネクションが大切な時代になると思いますがそんな時に頼りになるのが学生時代にアメリカや様々な国の人と一緒に学んだことによってできた人間関係だと思います。これは政治に限らず医学や科学、全ての分野に当てはまります。だから留学というのはとても大切なことで少なくなってしまうと心配です。

▼ Mさんがアメリカに来たきっかけは何ですか。

▲ ハワイの英語学校に行っていたのですがその時にハワイ大学のドクターコースで勉強していた主人と知り合い、結婚してアメリカに来ました。

▼ アメリカで楽しんでいる事を教えてください。

▲ 日本ではありえないような雄大な自然には大いに関心を持ってたくさんある National Park にできる限り行ってみるのが目標です。今までに行った中ではペトリファイドフォレストが印象的でした。2億年以上の時の力で化石化した倒木が宝石箱のように輝いていて圧倒的な美しさでした。今後はキーウエストなど行って



マウントシャスタ

みたいですね。今年はパワースポットとして有名なマウントシャスタに行く予定でとても楽しみです。

## 世界の果てまでふしぎ発見！ (その① アツシの南米放浪編)

皆さんこんにちは。ボランティアのアツシです。日ごろから留学生ホットラインをサポートして下さってありがとうございます。今回はぼくが12月から1月にかけて南米を旅行した時のことをレポートしたいと思います。

12月の中旬、まずLAからペルーのリマ(Lima)という街まで片道切符をもって8時間のフライト。リマの空港に着いて、ゲートをくぐった瞬間からタクシーやバスの勧誘、知らない人から話しかけられたりと、あっという間に南米の雰囲気を感じました。ましてや季節はLAや日本と真逆の夏だったため、余計に南米に着いたということが身に沁みました。

リマはペルーでも1番発達している場所なので、人だけでなく、ビルやレストランも多く、今回訪れた場所の中では比較的近代化が進んでいる場所でした。そこではあまり南米を味わえないなと思い、着いて早々今回の旅の行きたいとこリストの一つであるクスコ(Cusco)に次の日飛行機で飛ぶことにしました。クスコもペルーの中にある街の一つですが、マチュピチュに行く人のほとんどは体を高所に慣らすために リマ→クスコ→マチュピチュ という経路で行く人が多いそうです。

クスコでの話をする前に、バックパックの面白いところは知らない場所や観光スポットに行くのももちろんのこと、その日その日で泊まる hostel で出会う色々な国から来た人達と交流することが一番の醍醐味だと思います。あまり興味がなかったリマでも、hostel で出会ったアメリカ人とは会話が弾み、飛行機で飛びざりざりまで一緒に行動して、リマを出るのが少し寂しかったこともありましたが、なんやかんやでクスコに到着したのは夜でした。hostel は前日に予約をしていたので大丈夫だったのですが、南米についてからまだ南米感を味わっていない欲求と、何が起ころうとも命だけは大丈夫であろうという謎の自信で、少し距離はあったものの、タクシーに乗らず、真っ暗なクスコの街を1時間くらいかけて空港からhostel まで歩いていくことにしました。途中で野良犬に付け回されたときはものすごく自分の決断を後悔しかけたのですが、大きな問題もなく、無事にhostel までたどり着くことができました。それどころか、道中で伝統的な祭りがあったので、急遽参加したりして最終的には明るい状態でクスコの街を探索していると、色で彩られたすごくきれいな町でした。街が好きになってしまい、数日しかいない。そこで出会ったアルゼンチン人の人だけ持ってハイキングに行くなどしているところに行こうとしていたことなど完全に忘れ、気分今回の旅ではマチュピチュをスキップして、予約して、丸1日かけボリビアまで行きました。



クスコからボリビアまで行くには様々な方法がありますが、現地の人や他のバックパッカーからの情報を参考にしてバスが値段的にも心地よさでも一番いいということでバスを選びました。クスコから直行でウユニ塩湖に行くバスはなく、途中でボリビアのラパズ(La Paz)という大きな町を絶対に経由しなければいけないということだったので、仕様がなくラパズに降りて1日だけ観光。何とか知っているスペイン語の単語だけを使い、現地の人に道を聞きつつバスのチケットを取って、ウユニ塩湖に出発しました。

ウユニ塩湖(Salar de Uyuni)は文字通り広大な塩でできたフィールドでそのシーズンや、天候、時間によって見れるものが全く違う一年中いつでも楽しめる日本人が大好きな場所だそうです。自分が行った1月は雨期の始まりだったため、風の調子と天気がいい感じに合えば水面に反射されてできるまるで浮いているかのような写真がとれるのを期待して行くと、天気予報は毎日晴れ。ウユニ到着前日に少しだけ雨が降ったのを調べてあったため、少しの可能性を信じて朝バスがウユニに到着後速攻でツアー会社まで歩いていき、その日のうちに1日ツアーを取りました。ツアーでは始めにクスコの歴史的な背景や、どのようにウユニ塩湖が形成されたのかなどの説明があり、ウユニ塩湖の果てしなく続く土地でトリックショットをとったりして楽しんだりしていると、水が張っている場所が運よく見つかると、すぐに行ってみるとそこにはこれまで見たことないくらいきれいにすべてが反射されている不思議な世界が待っていました。そこでもこの反射を生かしたトリックショットを撮ったり、ふざけあつたりしてとても楽しい時間を過ごせました。そのあとも何日かウユニで過ごした後はこの旅でどうしても行ってみたい場所アルゼンチンのブエノスアイレス(Buenos Aires)に行くためにボリビアの首都であるサンタクルズ(Santa Cruz)を経由して飛行機で飛んで行きました。



ウユニ塩湖 (ボリビア)

ブエノスアイレスはアルゼンチンの首都であって、経済は安定しないものの、街自体はとてもきれいで、これまでに訪れた場所の中でもトップクラスに好きな町でした。広場が多く、観光客も多いので明るく人の多い道を通っていれば基本的には安全で旅をしやすい場所だとも思いました。ブエノスアイレスでは初日にツアーをとって、その日以降はホテルで出会ったブラジル人とアメリカ人とずっと一緒に行動していました。ブエノスアイレスは今思い出しても忘れられない絶対にもう一度行ってみたい場所になりました。



モネダ宮殿 (チリ, サンティアゴ)

なんだかんだあり、とうとう旅の最後であるペルーのサンティアゴ (Santiago) について。サンティアゴは南米で一番発達している場所で、物価は LA とほぼ変わらないかそれ以上かもしれないという南米では異常な経済の強さを維持しています。街はもちろん綺麗で、すごく安全な場所だとも思いました。サンティアゴではツアーで紹介されたレストランに一人で入っていくと現地の人から自分が日本人であるという理由でご飯をごちそうになったり、そのあとにチリスタイルのカラオケに連れて行ってもらったりして、日本から見て地球の反対側である南米でも日本人でよかったという誇りを感じました。

恐かったことも楽しかったこともいろいろあった南米旅でしたが、こうやって自分の知らない場所に実際に行ってみるとインターネットだけではわからないいろいろな発見だったり、新しい人とも出会えたりととてもいい経験になると感じました。それだけでなく、LA でもリトル東京があるように、世界中で日本人、日系であることに対して誇りを持って生きて行こうとも思いました。

## 団体紹介

### グローバル J ネットワーク

留学情報誌、グローバル J 通信の発行を始めとして、留学支援のための様々な活動を日本で行っています。

Web: <http://www.ye4.fiberbit.net/network/>

### JASSI : Japanese American Social Services, Inc.

ニューヨーク州やその近郊に居住する方へホットラインやシニアプログラムその他の福祉サービスを日米の文化を踏まえて提供しています。

Address: 100 Gold Street, LI, New York, NY 10038

Tel. 212-442-1541

E-Mail: [info@jassi.org](mailto:info@jassi.org)

Web: [www.jassi.org](http://www.jassi.org)

## Good News!

元、リトル東京サービスセンター  
ホットラインのスーパーバイザーを務  
春の叙勲で旭日単光章を受章され  
ボランティア一同、心よりお慶



社会福祉部長で長年留学生ホッ  
められた坂本安子氏が 2019 年度  
ました。  
び申し上げます。

## 編集後記

約 2 年前に留学生ホットラインでボランティアを始めてから、ニューズレターの担当をさせていただいたり、実際の電話相談のリスナーをすることができたりと、すごく身の詰まった 2 年間でしたが、私事で遠くに引っ越すため実際に留学生ホットラインのメインの仕事である相談の電話を取ることができなくなりました。今振り返ってみると、2 年前は何も知らない状態で興味本位で始めたボランティアでしたが、いればいるほど周りのスタッフに優しくして頂いて、アメリカの事、留学生の事などについて他では学べないような知識もできて留学生ホットラインにはとても感謝しています。これからは微力ではありますが、なにか別の形で留学生ホットラインに対してサポートできることがあれば頑張っていきたいと思っておりますので、2 年間支えてくださったスタッフ、関係者の方々、相談の電話をしてくれた留学生の皆さんにもう一度感謝の気持ちを伝えたいと思っております。ありがとうございました。

アツシ

**RYUGAKUSEI HOTLINE**  
**231 E. 3<sup>rd</sup> St., Suite G-106**  
**Los Angeles, CA 90013**